

「夏休み」を終えて



「志望理由の夏」の次は「職業人としての春」

夏休みも終わり、今回は「志望理由の先」のお話です

私はよく「会社や社会は普通の人で動いている」と話す。「自分は**特別**な存在ではない」と認識し、脇役たる自分を認めることが強い社会人への第一歩となる。

特に若手のうちは、会社の中でやられる“普通の仕事”に成長のためのヒントが多くある。

例えば「会議用に150部コピーしておいて」と上司に言われた時、その資料が**どんな**会議で使われ、**誰が**参加し、そこで**何が**決められるかで、コピーの取り方は変わってくる。歓迎会などの幹事を任された時は、限られた**コスト**で、誰が**主賓**かわきまえ、皆を喜ばせることを考える。会場や**内容**について、予め主要な参加者の了承を得る**根回し**も必要だろう。

コピーは「見る人はどう思うか」ととことん考える**プレゼンテーション**の基本。幹事は、課題をクリアしエンドユーザーや取引先を喜ばせる**プランニング**の基本トレーニングになる。

強い社会人になるには「やりたい仕事」ではなく「できる仕事、期待された仕事」を極めていくことが必要だ。つまり「やらされている仕事」が自分を強くする。

私は1対1の**コミュニケーション**が苦手だったが、**希望外**の営業職に配属された結果、鍛えられ、今では平気になった。売れない営業だったから上司に**行動量**を増やすよう言われ、1日に5〜7件のアポイントメントをこなすようになったら**タイムマネジメント**がうまくなった。限られた**時間**で企画書や見積書を作成しなければならないので、短時間で膨大な量を書ける処理能力（**キャパシティ**）が身に付いた。

これらは全てやらされた結果、身についたスキルだ。それによって現在の私があり、主体的に仕事ができるようになったのも、正しい仕事力を磨いたおかげだと思っている。

「**失敗**が許される」のは若手の特権。**失敗**を許されつつ成長するための訓練を積めるのだから。

常見洋平(人材コンサルタント)

職に就いてすぐに「自分のやりたい仕事」は絶対に回ってきません。
なぜなら..まだ、その環境であなたの「**信用**が足りない」=「**主体性**が見えない」からです。
(※いつまでも「自分のやりたい仕事」が回ってこないのは自分の「**信用**」「**主体性**」が足りないと心得よう)

普通であることは信頼性を有します。ただし、その普通を自分の尺度だけで測ってはいけません。

普通=「**普遍的に通用**すること」=「**何時**でも・**何処**でも・**誰**にでも**通用**すること」

❗信用度の足りない立場、普遍性のない「**オリジナリティ**」は、説得力に欠け社会では用いられない

やらされる普通の仕事・好みではない当たり前過ぎる仕事の中から**信用**を得るために..
「やらされる意味は?・なぜ**自分**に与えられたか?・**加えられる**ことは?」=『**ポジティブシンキング**』

❗“誰でも出来る事柄”(普遍)の中でも【「自分だからできること」(主体性)=**オリジナリティ**】は発見できる